

**下野市地域福祉計画策定に係る  
団体ヒアリング調査まとめ**

**平成 23 年 3 月**

**下野市**

# 目 次

I 調査の概要 .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査項目 .....	1
3. 調査設計 .....	1
4. 調査実施団体一覧 .....	2
II 調査の結果 .....	2
1. 活動を行う上での課題や問題点について .....	3
2. 団体としての今後の方向性について .....	4
3. 地域福祉の推進について .....	5
4. 子ども家庭福祉の地域推進について .....	6
5. 成人・高齢者の地域福祉の推進について .....	7
6. 障がい者の地域福祉の推進について .....	8
7. 行政に対する意見・要望について .....	9

# I 調査の概要

---

## 1. 調査の目的

下野市では、誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちづくりのため、市民・関係機関・団体と行政が連携し、地域住民がお互いに助け合い、支え合うことのできる仕組みづくりをめざして、「下野市地域福祉計画」の策定に取り組んでいます。

本調査は、福祉団体及びボランティア団体の、活動に関する現状や課題、今後の方向性、地域福祉施策についてのご意見等を把握し、地域福祉計画に反映することを目的として実施しました。

## 2. 調査項目

- 1 団体のプロフィール
- 2 団体の概要及び活動内容等について
- 3 活動を行う上での課題や問題点について
- 4 団体としての今後の方向性について
- 5 地域福祉の推進について
- 6 子ども家庭の福祉の地域推進について
- 7 成人・高齢者の地域福祉の推進について
- 8 障がい者の地域福祉の推進について
- 9 行政に対する意見・要望について

## 3. 調査設計

- 1 調査対象者 : 下野市内の福祉団体及びボランティア団体
- 2 標本数 : 11 団体
- 3 調査期間 : 平成 22 年 12 月 20 日～平成 23 年 1 月 21 日、2 月 4 日（ヒアリング）
- 4 調査方法 : 調査票による代表者記入方式  
調査対象団体への直接配布  
後日、調査票に基づき、直接ヒアリングを実施

## 4. 調査実施団体一覧

下記 11 団体を対象に、調査票の配布とヒアリングを実施した。

【調査票回収：11 団体、ヒアリングの実施：9 団体】

### ■調査実施団体一覧

	団体名	分類	調査票回収	ヒアリングの有無
1	下野市老人クラブ連合会	福祉	○	○
2	下野市身体障害者福祉会	福祉	○	○
3	下野市中心身障害児者父母の会	福祉	○	
4	下野市母子寡婦福祉会	福祉	○	
5	下野市遺族会	福祉	○	○
6	下野市ボランティア連絡協議会	福祉	○	○
7	下野市社会福祉協議会	福祉	○	○
8	お達者倶楽部	ボランティア	○	○
9	男の料理教室	ボランティア	○	○
10	にこにこ・ママン（託児）	ボランティア	○	○
11	音訳ボランティア こだま	ボランティア	○	○

## II 調査の結果

下野市において活動する団体について、調査票とヒアリングで調査したことを下記 7 項目に分類した。

### 【調査分類項目】

1. 活動を行う上での課題や問題点について
2. 団体としての今後の方向性について
3. 地域福祉の推進について
4. 子ども家庭福祉の地域推進について
5. 成人・高齢者の地域福祉の推進について
6. 障がい者の地域福祉の推進について
7. 行政に対する意見・要望について

## 1. 活動を行う上での課題や問題点について

活動を行う上での課題や問題点については、「継続的な活動の実施・維持」に関する意見が5件と多く挙がっている。次いで、「連携・協力し合う体制づくり」に関する意見が2件と挙がっている。

内 容	施策の方向性	団体名
<b>継続的な活動の実施・維持【5件】</b>		
●年々会員が減少している事。できれば市内の母子、寡婦の方々に入会していただきたい。	組織の活性化	下野市母子寡婦福祉会
●母子会の存在を知らない方々が多いのではないかと？母子会を広く知っていただく事。	活動の周知・PR	
●運営にあたっての問題としてはボランティアの人数です。1班が3人割当なので入所者の人たちに十分な対応ができていません。それに対応していくためには、最低16名は必要です。民生委員が主体として活動していますが、できれば一般の人もう少し加入があると良い。	組織の活性化	お達者倶楽部
●会員の皆さんが少しでも長くボランティアを続けていただく為にも交流会を開き、絆をつくっていくつもりです。		
●託児をする時の場所がない。（個人の家では託児をしないので）	活動拠点の確保	にこにこ・ママン
<b>連携・協力し合う体制づくり【2件】</b>		
●社会福祉協議会、下野市健康福祉部、高齢福祉課、各自治会の協力を強く要望します。	ネットワークづくり	下野市老人クラブ連合会
●行政との連携が必要である。		下野市身体障害者福祉会
<b>その他【1件】</b>		
●戦争の悲惨、平和に対する意識の低下。遺族自身の関心の薄弱化（戦没者との関係が遠くなってきている）	福祉意識の啓発	下野市遺族会

### ■ヒアリングでの意見

内 容
●それぞれが話し合い、横の連絡が必要である。
●地域に出て来られる人には何か支援の手を差し伸べることができるが、出て来ない人には何もできない。
●活動したいと思っている人とをどう活動に結び付けていくかが課題。
●地域活動する団体は自立するのが基本だと思う。
●見守り活動は、地区社会福祉協議会が主体となるので、その必要性は感じている。実現するためには、自治会の協力が必要。地域に密着した活動をしていきたい。
●市民や施設から挙がってくる意見、ニーズをいかに汲んで、それをどう活かすかが課題である。

## 2. 団体としての今後の方向性について

団体としての今後の方向性については、「活動の活性化」に関する意見が8件と多く挙がっている。次いで、「情報発信の充実」に関する意見が2件と挙がっている。

内 容	施策の方向性	団体名
<b>活動の活性化【8件】</b>		
●今まではカロリー制限を主体としたレシピを中心に料理教室を実施してきたが、今後は高齢者に対する必要な栄養全般並びに特定疾患に対する栄養管理法等を学んで行きたい。	福祉サービスの充実	男の料理教室
●料理教室として10年経過し若干まんねり化していると思われる。	組織の活性化	
●このままでは自然消滅しかないので、多くの方々に入会をしていただき活動の場を広げ、それにより多くの方々に母子会を知っていただく。	活動の周知・PR	下野市母子寡婦福祉会
●保護者の高齢化が進み、若い父母への啓発が必要と思うが、個人情報保護法が壁になっているように思う。	福祉意識の啓発	下野市心身障害児者父母の会
●入所者の方々と接することで皆さんが元気になっていただき、私達もともに喜びを育んでいきたい。	福祉サービスの充実	お達者倶楽部
●当面は人数の確保と、いろいろな特技を持っている人を見つけること。	組織の活性化	
●遺族（会員）の減力傾向をなくしていく。	組織の活性化	下野市遺族会
●今後も会員の加入促進、老人クラブ解散地域の防止対策に重点を置くこと、若手リーダーの育成強化、女性会員の育成強化、交通事故防止の研修会など地域から愛され、親しまれる下野市老人クラブ連合会を目指し、頑張っていきたい。〈例、高齢者の会議研修会に運動強化するので、輸送の問題有り〉	組織の活性化	下野市老人クラブ連合会
<b>情報発信の充実【2件】</b>		
●社協をお願いして広報に載せていただく予定。		
●下野市になってから、少しずつ教室の会員が減少している。旧国分寺町主催では町の広報で会員を募っていたが、下野市になってからは募る手段がない為と考えられる。	活動の周知・PR	お達者倶楽部
<b>その他【2件】</b>		
●市のバスがもう少し使いやすくなって欲しい。	移動手段の充実	下野市心身障害児者父母の会
●広い範囲を対象として総合的にサービスを提供していくより、小さい範囲で充実したサービスを提供し、その範囲をいくつも重ね合わせていくことにより市内全域にサービスを提供できるイメージで事業展開していきたい。		下野市社会福祉協議会
●地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを推進する。 (1) 住民参加、協働による福祉社会 (2) 地域の福祉ニーズに基づく先駆的な取り組み (3) 地域における利用本位の福祉サービス (4) 地域ねざした総合的な支援体制	協働の推進 ----- 福祉サービスの充実 ----- 情報提供・相談支援体制の充実	下野市社会福祉協議会

### 3. 地域福祉の推進について

地域福祉の推進については、「地域活動参加への支援」に関する意見が2件と挙がっている。

内 容	施策の方向性	団体名
<b>地域活動参加への支援【2件】</b>		
●自治会、社協、老人クラブへの地域活動参加の支援は地域を知るためにとても大切です。	交流の促進	お達者倶楽部
●各地域ごとの福祉ふれあい運動会は、老人クラブとしても大変よい計画で毎年実施を望みます。市主催の老人祝賀会も是非とも毎年開催してください。	交流の促進	下野市老人クラブ連合会
<b>その他【5件】</b>		
●地域福祉を推進するうえで、市民参画は必要不可欠である。地域福祉の体制を整えていくためには、行政サービスだけでなく、ボランティアや関係団体など地域の様々な人が積極的に関わっていくことが必要である。	協働の推進	下野市社会福祉協議会
●歩道をもっと歩き易く。(デコボコしている)	生活環境の整備	下野市母子寡婦福祉会
●相談事、聞きたい事をどこへ行けばいいか、そのような小さな事が知られていない。	情報提供・相談支援体制の充実	下野市母子寡婦福祉会
●民生委員が進めている(災害時一人も見逃さない運動)の中で、どうしても地域の人の何人かの協力がないと完全な実行にならない。それは個人情報取り扱いであり、情報の共有が不可欠。守秘義務の観点からネットワークづくりが妨げとなっている。自治会長、旧自治会長、旧民生委員等はいかがでしょうか。(横の繋がりとして行政、包括センター、社協は絶対必要)	ネットワークづくり	お達者倶楽部
●下野市老人クラブ連合会として、各自治会長会議に出席の機会があれば、活動内容、特に若手の加入促進運動の援助をお願いしたい。	活動の周知・PR	下野市老人クラブ連合会

#### ■ヒアリングでの意見

内 容
●自分達の世代と若い人達の考え方、意識が違いすぎる。若い人がどれだけ地域に入ってきてくれるのだろうか。
●若人は支え合いの意識が低い。
●人間関係において、やってもらったことに対するお礼を言える「思いやり」の心が足りないのでは。
●地域で孤立する人を地域でどう支えていくか。また、地域の困っている人を支える側が活動の中で孤立しないようにするにはどうすればいいのか。
●隣近所に声をかけられるようになって欲しい。昔できたことをできるようになれば。
●自治会、班内で柔軟に、即座にお互いを助け合おうという意識を持ってもらいたい。まずは、ちょっとしたお手伝いから、はじめてみればいいのかではないだろうか。
●ボランティアは人材の観点からみると、地域資源という点で資源になる。一元化されていると必要としている側と必要とされている側の相互のニーズのマッチングを図れるのではないだろうか。
●民生委員としての役割は果たすが、実際に地域活動団体に入って活動している人は、地区によっては極端に少ないところもある。私生活で一線を引いてしまっている。いかにして、日常生活においても、足を踏み入れてもらうかが課題である。

## 4. 子ども家庭福祉の地域推進について

子ども家庭福祉の地域推進については、「子育て環境の充実」に関する意見が8件と多く挙がっている。

内 容	施策の方向性	団体名
<b>子育て環境の充実【8件】</b>		
●市民の福祉に関する理解と関心を深めるといった福祉教育事業の充実。	福祉教育の充実	下野市老人クラブ連合会
●子どもがたくさん育つ市にならないと、活気のある市にならないと思う。子どもが育つ家が優遇される市になるための一つとして、学校給食の無料化が有効である。給食が無料の市に、住みたいと思う夫婦は多いだろう。地産地消を奨励し、食育を推進し、子どもが育てやすい環境を実現してほしい。	生活環境の整備	音訳ボランティア こだま
●各支援の利用方法や存在の広報。各サービスを利用したいときにすぐに利用する事ができなかったり、どのようなサービスがあるかよくわからない。	情報提供・相談支援体制の充実	下野市母子寡婦福祉会
●子ども達の豊かな遊びを充実するため、春休みや夏休みなどで老人クラブ、子ども育成会などと共同で室内、戸外での遊びをし、異世代間の交流を計り、絆を深める。	交流の促進	お達者倶楽部
●子育て支援センター等の参加を促進する。	交流の促進	下野市社会福祉協議会
●各世帯の家族構成すら分からなくなっている昨今では、近隣の子育て世帯が何を困難とし、何を求めているのか、実情が理解できない。	ニーズの把握	下野市ボランティア連絡協議会
●子どもの居場所・活動拠点をつくってほしい。年代の区別無く、自由闊達に遊べる空間（野外・屋内とも）を子どもたちに提供したい。社会性・創造性を育む貴重な場となるはずだ。官設民営でも良いと思う。	活動拠点の確保	
●子どもも一緒に地域活動に参加、参画する機会設定を。子どもをお客様として待遇するのではなく、子どもたち自らが地域活動を企画・実践できるよう誘導・支援策が必要ではないか。	交流の促進	



## 5. 成人・高齢者の地域福祉の推進について

成人・高齢者の地域福祉の推進については、「施設の整備」と「安心して働ける環境づくり」に関する意見がともに2件と挙がっている。

内 容	施策の方向性	団体名
<b>施設の整備【2件】</b>		
●積極的な健康づくりと維持のため、公的施設（スポーツ）の設置。誰もが気軽に利用でき、一般的なスポーツをするのではなく、リハビリ、筋力アップ、ウォーキング等をする施設。	健康づくり	お達者倶楽部
●お金のかからない高齢者の施設。（認知、要介護、要支援の人々が安心して暮らせる）	施設の整備	男の料理教室
<b>安心して働ける環境づくり【2件】</b>		
●高齢化及び少子化が進んで人口構成が変化してしまった日本で、今の閉塞状態を打破するには安心して働ける社会を築くことだと思う。自分の将来、未来に安心が無いからこの不況から脱却できない。解決の唯一の方法は安心して働ける社会の構築＝安心できる老後の人生。	就労環境の充実	男の料理教室
●職を失った成人の方への就労支援。（ハローワークと生活課との連携）	就労環境の充実	お達者倶楽部
<b>その他【7件】</b>		
●徘徊する認知症高齢者の見守りを求める声もあるようだ。家族からの支援要請があっても地域では何ができるか検討することができ、また、どう対処したらよいのか教示されないと動けない部分もある。地域包括支援センターはこの観点からの講座開設を求める。	情報提供・相談支援体制の充実	下野市ボランティア連絡協議会
●要介護者情報は最も身近な社会である自治会などに提供すべきではないか。支援が必要となってからではなく、支援態勢がとれるよう日頃から自治会で話し合うことが大事だと思う。現状では誰が何を求めているのか分からず、支援のしようがない。		
●高齢者の閉じこもり・要介護予防事業として高齢者サロン事業が数カ所で行われているが、委託事業（陽だまり・生きがい作業所など）に比べて行政支援の差が大きすぎる。是正に努めて欲しい。	福祉サービスの充実	
●都内の事例で老人介護施設で学童保育をしているのをテレビで見た。お年寄りにとっては、子どもが身近にいる環境が心身の活性化につながっていき、子どもにとってもお年寄りとの関わり方を学ぶいい機会となっていた。下野市でも、他世代の交流が行われる環境を整えたいと思う。	交流の促進	音訳ボランティア こだま
●小中学校の図書室、家庭科室、音楽室、技術室、美術室などが、体育館や校庭のように市民が利用できるようなといいと思う。図書室は、地域の図書室として開放され、一般の人も貸し出しできるといいと思う。そのためのボランティアやネットワークを構築したい。	ネットワークづくり	
●高齢社会を迎え、高齢者の健康づくり及び介護予防活動の取り組みが重要視されているので、健康づくり推進員の養成と活用への取り組みをお願いしたい。（例）健康ウォーキングの取り組みなど？	健康づくり	下野市老人クラブ連合会
●各施設への移動、利用したくてもすぐにはできない事等があり、利用をあきらめた事が多々あります。	移動手段の充実	下野市母子寡婦福祉会

## 6. 障がい者の地域福祉の推進について

障がい者の地域福祉の推進については、「交流の促進」に関する意見が3件と多く挙げられている。次いで、「自立生活の促進」に関する意見が2件と挙げられている。

内 容	施策の方向性	団体名	
<b>交流の促進【3件】</b>			
●市内には、国分寺特別支援学校があるので、もっと、市民との交流が図れるネットワークが築けたらいいと思う。	交流の促進	音訳ボランティア こだま	
●視覚障がい者サービスを行っているが、視覚障がい者との交流会があれば、会員の勧誘や利用者の拡大につながると思う。			
●障がい者との交流スポーツ。	交流の促進	お達者倶楽部	
<b>自立生活の促進【2件】</b>			
●各病院等でリハビリを行い歩行可能になり、退院しても自宅ではそのようなリハビリが行えず転倒、再び入院を繰り返してしまう。これらをくり返す事の何と多い事か。	地域移行支援	下野市母子寡婦福祉会	
●地域福祉の振興、早期発見、早期療育は最も大事。医師の充実とリハビリの充実が必要である。		下野市身体障害者福祉会	
<b>その他【9件】</b>			
●バリアフリー化の推進。	生活環境の整備	お達者倶楽部	
●会員からしばしば障がい児の学童保育実施を求める声を聞く。市内小中学校のみならず、特別支援学校に通学する児童生徒も念頭に、障がい児学童保育実施に向けて検討してほしい。現在の各小学校区ごとの学童保育で受け入れられるよう、指導員配置拡充も一策と思う。ボランティアだけでは対処できない事業である。	ボランティア活動の推進		
●保健指導、リハビリテーションの充実。	福祉サービスの充実		
●おもちゃ図書館への支援。	交流の促進		
●家族会への支援。	支援体制づくり		
●現在毎年行われている、ふれあい運動会、福祉フェスタのPRが必要である。	福祉意識の啓発		
●何らかの方法で障がい者の福祉サービスをお願いしたい。例えば、タクシーの半額券の交付など。	福祉サービスの充実		下野市老人クラブ連合会
●市民の理解と協力についての啓発活動が大切である。	福祉意識の啓発		下野市身体障害者福祉会

### ■ヒアリングでの意見

内 容
●障がいを持っている方は困っていることに対して、声を出さない。

## 7. 行政に対する意見・要望について

行政に対する意見・要望については、「移動手段の充実」に関する意見が2件と挙がっている。

内 容	施策の方向性	団体名
<b>移動手段の充実【2件】</b>		
●公共交通の下野市のあり方、早いうちにデマンド方式でお願いします。	移動手段の充実	下野市老人クラブ連合会
●市内巡回バスなどの考えはないのでしょうか？各施設等利用したくても車でなければ行けない所が多々あり、結果利用をあきらめるといふ事があるのではと思います。	移動手段の充実	下野市母子寡婦福祉会
<b>その他【7件】</b>		
●下野市の足りない地域福祉施策は今、合併5年であるので、これからさまざまな世論の調整をしてほしい。（今回のこの調査の整合性と今後の努力を期待します）	ニーズの把握	下野市身体障害者福祉会
●地域福祉は市民の助け合い・支え合い精神に基づく活動が中心になると思う。コミュニティビジネス起業につながることもあると思うが、根本は利益を生み出すことではなく人の役に立つことが目的ではないだろうか。そうしたとき、頼まれて行動することも契機になるかも知れないが、主体的に活動する市民が求められると思う。市民が身近なこと、我が身に係ることとして地域福祉を考え実践できるよう、「地域福祉とは何か」を理解する啓発事業をお願いしたい。	福祉意識の啓発	下野市ボランティア連絡協議会
●市は「市民との協働」を重要課題としているが、行政全分野において協働のあり方をきちんと共通認識して頂きたい。	協働の推進	
●下野市ではまだボランティアをする人が少ないと思う。1人の人が2～3箇所またそれ以上活動している人もいます。ボランティア連絡協議会では約550名、ボランティアにもいろいろなボランティアがありますが、事例として参考にならないかもしれませんが、茨城県牛久市の場合、NPOが主体となっていますが人口8万3,000人、団体が55、ボランティア会員4,000人とのことです。※いずれにしても良い福祉をしていく為には人、団体、行政が一体となって福祉の分野で共通認識を育てていく地域をつくり上げていくことです。	福祉意識の啓発 ／ボランティア活動の推進	お達者倶楽部
●旧薬師寺農協の広場、高齢者の運動場としての要望が有る。また跡地に高齢者向けの施設、事務局、なんでも相談できる施設の設置を要望します。	施設の整備／情報提供・相談支援体制の充実	下野市老人クラブ連合会
●高齢者が笑ってらせる社会をつくる必要がある。（国と地方が一体となり行う）	高齢者が暮らしやすい社会づくり	男の料理教室
●施設の建設が難しければ、既存の施設を使って、計画的にトータルトレーニングをくむトレーナーとアドバイザーを充実させ、きらら館やゆうゆう館、ふれあい館の各公民館や体育館を結んで利用者のすそ野を広げたら各施設の利用者拡大も図れると思う。	健康づくり	音訳ボランティア こだま

## ■ヒアリングでの意見

内 容
●市の広報が編集の視点で見ると、ありきたりである。
●行政は行政で細かいところで気を配って頂いている。それに対して、どこまでお願いしてもいいのかわからない。